20　次の文章を読んで、後の問いに答えよ。なお、設問の都合上、一部返り点・送り仮名を省いたところがある。　　　　〈愛知県立大〉二〇二二年度出題

前　　王　商、　子　威、涿　郡　蠡　　成　　時　㆓ 左　将 ㆒。

京　　民　 故　　　㆓ 大　水　。百　姓　奔　　　蹂　、老　弱　号　、長　安　中　 。天　子　 公　㆒ 大　将　軍　王　鳳 ①以 為、「②太　　㆓ 上　　后　宮㆒ ㆑ ㆑ 。③令　吏　民　 長　安　　以　避　水」。商　「㆑ 　無　道　之　水　　不㆑ ㆓ 城　㆒。今　政　治　和　　㆓ 兵　革㆒、上　下　　④　　㆓大　水　 。　　訛　上　 。 訛　。上　美 　商　之　固　㆒、　㆓ 　㆒。 鳳　 。

⑤　㆓ 丞　㆒。㆑ 、㆑ 質　而　㆓ 威　重㆒、長　八　尺　余、身　体　鴻　 容　貌　㆑ 。単　于　来　。 商　㆓ 未　央　廷　㆒。単　于　拝 　㆒。　　 ㆑ 、遷　延　却　。上　　 「　　 矣」。鳳　㆑ 。⑥　㆓ 　㆒。 ㆑ ㆑ 、 　。

（『蒙求』より）

（注）

　…地名。

　京師…みやこ。

　天子・上…前漢の成帝。

　御…お乗りになる。

　訛言…でたらめ。

　固守…ぶれがないこと。

　称…称賛する。

　多質…飾り気がない。

　単于…匈奴の君主。

　未央廷…長安にある宮殿。

　中…中傷する

問１　傍線部①のよみを、送り仮名を含めてひらがなで記せ。解答は現代仮名遣いでもよい。

問２　傍線部②を書き下し文にせよ。解答は現代仮名遣いでもよい。

問３　傍線部③に返り点を付せ。

問４　傍線部④を現代語訳せよ。

問５　傍線部⑤の主語は誰か。次のア～オから一つ選び記号で答えよ。

ア　王商　　イ　百姓　　ウ　天子　　エ　王鳳　　オ　単于

◎問６

　　（１）　傍線部⑥で王鳳はなぜこのようなことをしたと考えられるか。本文全体をふまえて二〇字以内で説明せよ。

　　（２）　その結果どうなったか。人物名を明示して説明せよ。

【解答と採点基準】

問１　おもらく

問２　太后と上及び后宮とは船に御すべし

問３　令下 吏民上二 長安城一 以避上レ 水

問４　ＡどうしてＢ大洪水が突然やってくるようなことがありましょうか、いやありません。

訳が反語「～か、いや～ない」の意になっていないものは全体０。

Ａ＝２〔「どうして」は「なぜ」「何の理由で」なども可。〕

Ｂ＝８〔同意可。「突然」は「いきなり」なども可。〕

問５　ア

問６　（１）＝Ａ成帝に褒められた王商にＢ嫉妬していたから。（20字）

Ａ＝５〔「帝に信頼されている王商に」なども可。〕

Ｂ＝５〔「恨みを抱いていた」なども可。文末が「～から。」となっていないものは減点１。〕

　　　（２）＝Ａ王商は、Ｂ王鳳に中傷されて、Ｃ成帝によりＤ宰相をやめさせられ、Ｅその後亡くなった。

ＡとＤ・Ｅが主語・述語として整っていないものは全体０。

Ａ＝２

Ｂ＝２〔「中傷され」は「欠点を指摘され」なども可。〕

Ｃ＝２

Ｄ＝２〔「宰相」は「丞相」なども可。「やめさせられ」は「罷免され」なども可。〕

Ｅ＝２〔「亡くなった」は「死んだ」なども可。〕

【書き下し文】

の、は、のなり。のとる。

のくしてひきるとふ。し相ひし、し、いにる。をしてせしむ。将軍問１へらく、「問２とびとはにすべし。をして長安にりてて水をけしむ。」と。商はく、「へよりのなるも、水ほをさず。にして、に無く、相ひんず。にりて大水かに至ることらんや。れずなり。」と。上ちむ。たして訛言なり。上商のをとし、の議をす。して鳳大いにづ。

ちと為る。人と為り、く有り、、にして、人にぐ。す。商中にす。単于みて、商にす。ぎて大いにをれ、す。上きじて曰はく、「に漢の相なり。」と。鳳商をむ。に其のをむ。にると為り、相をぜられてず。

【現代語訳】

前漢の王商は、字は子威といい、涿郡蠡吾県の出身である。成帝の時に左将軍となった。

都（長安）の人々は根拠のないまま驚き合い、大洪水が（都を）襲うとうわさした。（大洪水を怖れる）人々は逃げまどい押し合ったり踏み合ったりして、年寄りも子どもも泣き叫び、長安の町中は大混乱となった。成帝は大臣を集め（大洪水への対処を）議論させた。大将軍王鳳が考え（を述べ）ることには、「成帝の母と成帝ご自身、それから後宮の人々は船にお乗りになるのがよいでしょう。役人や民間人を長安城（の城郭）に上らせることで大洪水を避けさせましょう。」と。王商が言うことには、「昔から正しい道徳が行なわれていない国であっても、洪水はそれでも長安城の城郭を越えて押し寄せることはありませんでした。今、政治は落ち着いており、世の中には戦乱もなく、身分の高い人も低い人もともに安定しています。問４どうして大洪水が突然やってくるようなことがありましょうか、いやありません。これはきっとでたらめです。」と。成帝はそこで（洪水からの避難を）中止した。（大洪水が都を襲うとのうわさは）思ったとおり、でたらめであった。成帝は王商のぶれがない姿勢を立派だとして、たびたびその議論（での発言）を称賛した。そのため王鳳は（議論での自分の発言を）大いに恥じた。

その後（王商は）宰相となった。（王商の）人格は、飾り気がなく威厳に満ちており、身長は八尺を超えて、体格も大きく、外見が人にっていた。匈奴の君主が（前漢を）訪問した。王商は（長安にある宮殿の）未央宮の中に座っていた。匈奴の君主は進み出て、（まずは宰相の）王商にお目通りした。（匈奴の君主は王商を）仰ぎ見て大いに（王商の）威厳をおそれ、尻込みして引き下がった。成帝は（このことを）聞いて感嘆して言うことには、「実にわが漢の宰相であることよ。」と。王鳳は王商を恨んでいた。（王鳳は）こっそりと王商の欠点を探し求めた。（王商は）とうとう（王鳳に）中傷されて、（成帝により）宰相をやめさせられ（その後）亡くなった。